研究開発・知的財産・標準化

（2023年10月1日現在）

研究開発の取り組みと目指す方向性

常務執行役員
CTO 兼 R&D担当
兼 研究開発本部長 兼 SBPJ社長
種谷 元隆

コーポレートR&D部門である研究開発本部では、「社会にインパクトを与える世界初/世界一の独自技術により新しいエコシステムを構築し、新規事業を創出・拡大することにより、持続可能な社会の実現に貢献する」というミッションに取り組んでいます。

ESGに重点を置いた経営の実践に向け、One SHARPの連携・協力関係により、デジタルヘルスケア領域における新たな事業展開の加速や、カーボンニュートラルへの貢献に向けた取り組みの強化を進めています。加えて、技術革新が進むAI技術の応用により、インダストリーDXソリューションの拡大等で独自技術創出を推進しています。

技術力のさらなる強化を目的に、全社のイノベーションを支える基幹エンジンとなる革新技術の創出と、独自技術を核としたプラットフォーム構築にも注力しています。

また、オープンインキュベーション活動の一環として、スタートアップの事業展開支援も含め、技術革新を生み出す企業間連携を推進しています。研究開発成果を新たな事業領域に展開していくため、社内外との協業推進を担う専門部隊を本部内に設置し、インダストリーDXを中心とした異業種共創にも積極的に取り組んでいます。

私たちは、人と地球にやさしい社会の実現を目指して、新たな事業創出に挑戦し、開発成果の早期社会実装を通じてイノベーションの実現を加速していきます。

知的財産戦略

シャープでは、知的財産戦略を経営上重要な戦略の一つとして位置付け、事業戦略や研究開発戦略と一体で推進しています。積極的な特許取得を推進することで、事業の優位性を高め、経営基盤の強化に努めています。2016年には知的財産部門のプロフィットセンター化を図るため、当該部門を分社化し、ScienBiziP Japan株式会社（SBPJ）を設立しました。シャープの商品、技術及び事業を熟知したSBPJが、専門業務の質の向上と効率の改善をより一層強固に進めながら、高度なサービスを提供することで、知的財産経営の推進力を高め、シャープの先進技術から強い特許と様々な経済価値を生み出していきます。

特許取得に関しては、事業ごとに中核となる技術分野を明確化し、現場に密着した戦略的な特許出願を行っています。また、他社との協業あるいは産学連携などのアライアンス活動により生み出される有用特許の取得も積極的に行っています。

標準化戦略

近年、標準化活動は市場の創出や競争優位性の確保など、企業経営戦略のツールの一つとして重要性が高まるとともに、我が国においても国際標準獲得を通じた競争力強化が急務となっています。

当社は、2003年に無線通信技術の規格特許取得を目的とした研究所を設置し、2004年に3GPP※1会合で開始されたLTEの標準化に参加、以来、Beyond 5Gの標準化に至るまで継続して参画しています。現在、世界50か国以上で6,000件以上の通信規格必須特許を保有し、重要な経営資源として活用しています。

また、海外企業や大学等との国際連携も活発に行っており、特に次世代の通信・映像符号化技術の国際標準化を促進しています。国際会議には、積極的に若手社員を派遣し、多くの活動経験を積むことで高度なスキルを持つ人材育成に取り組んでいます。

■貢献事例

5G-Advanced 標準仕様策定における貢献

5Gの機能拡張・性能改善を目的とした「5G-Advanced」の世界初の物理レイヤ標準仕様の策定に貢献
（「5G-Advanced」は、2020年代後半に実用化を見込んでいる）

■受賞歴

令和4年度 産業標準化事業表彰「産業技術環境局長表彰※2」を受賞

世界の映像伝送で利用されるHEVC/VVC規格と、多視点映像や多ビット高精度映像記録を実現する拡張規格の策定に貢献したことが評価

※1 3rd Generation Partnership Project の略。移動体通信システムの国際標準仕様の策定を行う団体
※2 標準の策定や適合性評価活動など、産業標準化推進活動への功績を讃え経済産業省が表彰する